

平成 29 年度カキ養殖概況

岩本俊樹*・村山史康

養殖規模 平成 29 年度の漁業協同組合別マガキ養殖状況を表 1 に示した。全県の経営体数は、前年度から 3 経営体減少し、143 経営体であった。筏台数は、前年度から 6 台増加し、2,019 台であった。

養殖経過 本年度の牛窓沖海水温と平年偏差の推移を図 1 に示した。4~8 月は平年値との差が-0.4~2.7℃の間で変動した。その後、9 月以降、平年値と同程度か平年値を下回って推移し、11 月中旬~2 月下旬は平年値より 0~1.7℃低かった。3 月以降は平年並みとなり、平年値との差は-0.3~0.6℃であった。

クロロフィル a 量の全漁場 39 定点の平均値は、抑制期(4~9 月)は 7.1 μ g/L と、平年(5.7 μ g/L)より 1.8 μ g/L 高かった。また、養成期(10 月~翌 3 月)では 3.4 μ g/L と、平年(3.3 μ g/L)とほぼ同じ値であった。

本垂下は 4~5 月下旬の間に、沖出しは 10 月に、生産は 10 月下旬~11 月上旬の間に例年どおり開始された。本年度は 12 月までは、へい死が少ないうえ餌料生物が少なかったため、成長、身入りとも悪く、需要が低迷した。1 月以降、一部地域を除き、餌不足は解消し、身入りが回復した。また、規制値を超えた貝毒は検出されなかったものの、4 月初旬に県東部海域で出荷を一時的に自粛したため、漁期は例年より長期間となった。

生産結果 漁期前半の成長が悪く、10~12 月の間の累積生産量は約 83t と過去 10 年間で最も少なかった。1 月以降は、成長、身入りとも徐々に回復し、生産量が維持されたため、年間生産量は前年度比 117%の 3,517t となり(表 1)、過去 10 年間の平均値(3,515t)と同程度であった。

県が実施したカキ出荷期間中のノロウイルス検査は 140 検体中 4 検体が陽性で、陽性率は 2.9%であった。

その他 県内採苗は日生町、伊里、邑久町、牛窓町漁協で 7 月中旬から始まったが、幼生出現数が少なかったことなどから、例年より遅い 8 月下旬まで行われ予定枚数を確保した。

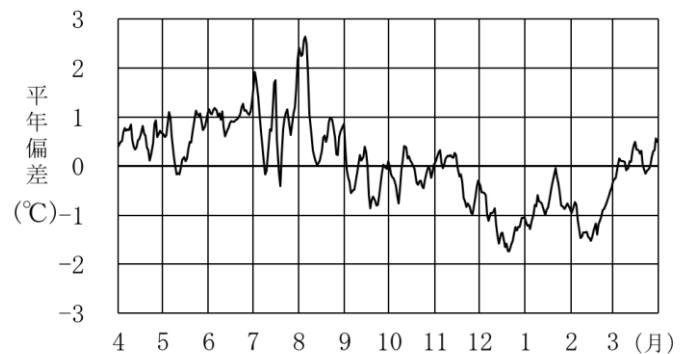


図 1 平成 29 年度の牛窓沖海水温と平年偏差の推移(平年値は 1981~2010 年の平均)

表 1 マガキ養殖状況(平成 29 年度養殖年度)

漁協名	経営体数	筏台数	沖出し時期 (月/日)	生産時期 (月/日)	生産量	
					むき身(t)	対前年度比(%)
日生町	47	484	9/29 - 10/8	10/26 - 4/30	1,645	147
伊里	5	43	9/15	11/ 3 - 3/23	29	98
邑久町	64	1,287	9/23 - 10/13	10/25 - 5/18	1,543	99
牛窓町	6	102	9/27 - 10/30	10/26 - 4/14	129	114
寄島町	16	77	10/11 - 10/17	11/ 3 - 4/30	142	97
笠岡市	5	26	10/11 - 10/31	11/ 5 - 5/ 7	28	84
合計	143	2,019	9/15 - 10/30	10/25 - 5/31	3,517	117

*岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課